

都道府県別賞一等

未来のための買い物

宮崎県 鵬翔中学校 二学年

黒川 蒼太

保険のことを意識するようになったのは、確か小学校六年生ぐらいの頃だ。自転車保険加入の封筒に「小学生でも事故の加害者に」と書かれていた。そこには無灯の自転車で夜道を走っていた小学生が老人を跳ね飛ばし三千万円を払った事故がのっていた。自転車によく乗っていて『同じ様なことになったら』とって怖くなり、保険のことを意識するようになった。

保険の仕組みだと払ったお金はほとんど返ってこない。それなのに日本の九割が入っていると『なんでお金を無駄にするんだろう』と気味が悪かった。保険Ⅱ損だと思っていた。ただ、保険も立派な買い物だ。よく考えると安心して暮らせる日常を買っているようなものだから、お金を無駄にしている訳ではない。だから、保険Ⅱ損ではない。

ずっと、病気は他人事と思って意識しなかったが、僕はてんかんだと分かった。時々、けいれんを起こす。その後は、ひどい吐き気と全身の筋肉痛に襲われ、真っ直ぐ歩くことすらできない。何度も救急車で運ばれる。もしかしたら入院もするかもしれない。そうなった時、お金が必要だ。周りに迷惑をかけたくないから病気の保障に入る人の気持ちがよく分かった。

また、事故発生件数や入院患者の割合を見て、背筋が凍った。事故は約八秒に一回、入院は二秒に一人。とんでもない数字だ。四十五分の授業を受けている間に約三十四件の事故が発生し千三百五十人が入院するのだ。自分は大丈夫という考えがどれだけ単純だったのかよく分かった。

まだ僕が幼稚園に通っていた頃、父親が交通事故にあった。何があったのかよく分からなかったが、大変なことだとは分かった。父親は腕を骨折するだけで済んだが、通院費はかかった。ただ、保険に入っていたおかげで、すぐに通院費を補えるくらいの額が出たそうだ。今思うと、とてもありがたい。

少し前、保険会社の方に保険の歴史を教えてもらったことがある。元々保険は、教会で神父達がお金を少しずつ集め、家族が亡くなった人達に渡していたそうだ。つまり元々保険は寄付のようなものだったのだ。今とは少し違うけど他人を思いやる優しい気持ちは今も昔も変わらないと分かった。

ずっと病気や事故は他人事だと思っていたがそうではない。将来事故にあったり入院したりするかもしれない。そんなことがあった時は保険に頼るしかない。そのためにも、今は、保険に入って困っている人達を支え、逆に、困った

第59回中学生作文コンクール

時は支えてもらいたい。
もしものことがあった時はどれだけ大変な目に遭ってもお金が必要だ。そんな時のために備えるのが保険だ。本当は安心して暮らせる平和の中になつてほしい。ただ、事故や病気は突然起こる上に、起きてからではもう遅い。そのためにも、僕は将来保険に入って、沢山の友達と助け合いながら生きていきたい。